

おきたま米づくり情報 No.2

平成 28 年 4 月 11 日

J A 山形おきたま
オール山形米づくり日本一運動
置賜地域実践本部

天候に合わせた温度・水管理でイキイキ苗づくり！

1 か月予報では、気温がかなり高くなると予報されています。昨年は高温による苗ヤケが多く発生しました。出芽が揃うまでは特に注意が必要です。遮光資材の使用や、こまめに温度を確認する等、高温対策を万全にとりましょう。

種まき

気象変動に強い米づくりの第一歩は健苗を適期に植え、初期生育を確保することです。種まきは田植えが 5 月 15～20 日にできるよう、日付を逆算して計画を立てましょう。

育苗作業のめやす

	育苗日数	田植え適期	播種	催芽	水漬け
稚苗	25 日	5 月 20 日	4 月 25 日	4 月 24 日	4 月 13 日
中苗	35 日		4 月 15 日	4 月 14 日	4 月 2 日

育苗初期の温度・水管理

昨年は育苗初期の苗ヤケが多く発生しました。温度計をハウス内および育苗箱付近に必ず設置し、適温となるよう遮光資材やハウスの開閉で温度調節を行いましょう。

被覆資材は、保温性をもつもの、遮光により育苗箱内の温度を低く保つもの、両方の特性をもつもの等、それぞれ特性が異なります。使っている資材の特性を良く理解することが大切です。

育苗期間の温度管理

	昼間	夜間	注意点
出芽時	30～32℃		○無加温出芽は出芽を揃えることがカギ。きめこまやかな管理を行う。
緑化期 (出芽後 2～3 日)	25℃	15℃	○外気温が 25℃以上の日は要注意！ 早めにハウスを開閉する。 ○低温時には保温に努める。
緑化期以降	20～25℃	8℃以上	○霜が予想される場合は早めにハウスを閉める。

○かん水は午前中に 1 回を基本とする。夕方からのかん水は根張り不良となるため避けましょう。

【低温対策】

被覆資材で保温対策をとる。遮光性の高い資材は保温効果が低いので注意。

苗床も

温度を確認！

育苗箱



【高温対策】

晴天時は高温障害が発生しやすい。40℃を超すと 30 分でヤケることも。早めにハウスを解放する、太陽シート等の遮光資材を使う等の対策を取る。

○プール育苗では 1.5 葉期からハウスを開放し、かん水します（箱上 1 cm 程度）。

苗が伸びやすくなるため、ハウスの気温はやや低めに管理しましょう。

育苗期間中の病害対策

出芽を揃え、温度管理やかん水を適切に行い、病害を発生させない環境づくりが大切です。カビが発生したり、苗の生育異常がみられたりした場合には早めにご相談ください。

育苗期間中に発生する病害と対策

病原菌	主な症状	発生条件	発生抑制のポイント
フザリウム	白色～淡紅色のカビ	緑化期の 低温、湿度の 変動が大きい 時	○低温をさけ、適切な温度を保つ ○加湿にしない
ピシウム	カビは見えない。 出芽後の芽、根の枯死、ムレ苗		
リゾプス	種子、芽の周辺に白いカビ、 根の褐変、葉の黄化	出芽時の 高温多湿	○33℃以上の高温、多湿にしない
苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	第 2 葉の葉身基部が黄白化、 枯死、坪枯れ	高温、多湿	○高温、多湿にしない ○発生した場合は苗を処分

土づくり肥料を積極投入

土づくり肥料の中でも特にケイ酸資材は気象の変動に負けないイネづくりに重要です。

ケイ酸資材は①根の活力維持、②登熟能力の向上、③いもち病抵抗性向上の効果が期待できます。積極的に施用しましょう。【施用のめやす】ケイカル 120 kg/10a

pH の低いほ場では有機物の分解が遅れ、ワキを助長します。適正な pH は 5.5～6.5 です。酸度矯正を行い、肥料養分の吸収阻害等を防ぎましょう。

養分の供給力増加や、登熟不良・品質低下軽減のために、耕土深 15cm を目標に耕起を行いましょう。

雑草イネ発生に注意！

玄米に赤米が混入していたら、雑草イネの可能性大！

発生ほ場は早急に対応を！



【主な雑草イネ防除対策】

1. 雑草イネを見つけたら株元から抜き取る。
※時期が遅れると脱粒してくるので注意
2. 雑草イネに効果のある除草剤の体系処理を行う。
※効果のある除草剤、散布タイミング（雑草イネ出芽前処理）等については普及課、JA にお問い合わせください。
3. 拡散防止のため機械作業を行う際には雑草イネほ場を最後にする。

STOP！農作業事故！

～春季農作業事故防止強化期間中～